4 歳児男児の対人行動の個人差

～保育園における外遊び観察から～

○村田カズ¹・相良順子²

(¹ 聖徳大学短期大学部保育科・² 聖徳大学児童学部)

キーワード：積極的対人行動・保育園 4 歳児クラス男児・外遊び

Individual differences of social behaviors of 4 boys in the fourth year class : Observations in a day-care

Kazu MURATA¹ and Junko SAGARA²

(¹ Junior College, Seitoku Univ., ² Faculty of Child Studies, Seitoku Univ.)

Key Words: social interaction, boys in the fourth year class, outdoor play

目 的

本研究は、保育園で過ごす乳幼児の個人差を示す行動指標をさぐる探索的な一連の研究のひとつである。ここでは、保育園 4 歳児クラスの男児が自由遊び時間中にみせる対人行動の個人差を検討する。さまざまな年齢の保育園児が園生活に慣れてきた学年度後半の時期に、0 歳児以外ほぼ全員が園庭で自由に遊ぶ外遊び時間を観察することによって、対象児の対人行動の特徴を検討していく。観察結果から得られた知見と、担任保育士による対象児についてのコメントとの一致度を調べ、精度の高い観察視点をさぐることを目的とする。自由遊び時間の中でも外遊びのみについて、女児に比べて移動距離の大きい男児の対人行動のうち特に積極的に話しかけるという行動に着目し観察した結果を報告する。

方 法

(1) 対象児

東京都内にある各学年 1 クラスの私立保育園に通う 4 歳児クラス男児 4 名（この 4 名は 0 歳児クラス在籍時から縦断的に観察とビデオ撮影を続けてきた保育園児であり、Ta は 4 月生まれ、Re は 5 月生まれ、Ke は 6 月生まれ、Ko は 10 月生まれ）を対象とした。対象児が所属する 4 歳児クラスは、男児 11 名、女児 11 名のクラスであり、保護者には研究概要を説明したうえで本研究への協力を依頼し承諾を得ている。

(2) 手続き

クラスの終わりの会終了後、自由遊び時間が園庭での外遊びとなった日の約 45 分間を筆者ら 2 名と児童学専攻の大学院生 1 名が交替で、原則として週 1 回ビデオ撮影した。また担任保育士に、対象児についてのインタビューを実施した。

(3) 観察期間と場所

2010 年 11 月から 2011 年 2 月。園庭には、砂場、ままごとセットとスコップなどのおもちゃ、そしてブランコ 1 基、滑り台 1 基、ジャングルジム 1 基、吊り輪や登り棒などからなる複合遊具 1 基、テーブル 1 つなどの固定遊具があった。担任保育士へのインタビューは、2011 年 5 月。

(4) 測定

ビデオに録画された対象児が、園庭にいる保育者・他児・撮影者に対して視線を送ったり、話しかけたりした回数が記録された。また対象児が園庭にいる人から話しかけられた回数も記録された。記録は、DKH 社の行動分析ソフトを使用し、少なくとも 3 日分の映像から得た 5 秒毎の静止画像のうち、視線と話しかけについて特定出来る、各対象児についての 120 カットを分析対象としておこなわれた。

(5) 評定

対象児が視線を送ったり話しかけたりした相手は、筆者ら 2 名によるビデオ視聴で決定された。

結 果 と 考 察

4 名の対象児が話しかけた相手と回数を図 1 に示す。

図1 話しかけた相手

表 1 は、担任保育士へのインタビュー時の記録である。

表 1 担任保育士によるコメント

Ko	自分を認めて欲しいという思いが強く、しつこいと思われることが多い。
Ke	友だち思いで優しい。競争意識はあまりない。喧嘩の時には悪くなくても泣いてしまう。
Re	友だちに対して強い口調で話すが、素直に謝る。さりげなく友だちを褒めることができる、人気者。
Ta	短気な部分があり、否定されるとすぐ泣く。友だちの中に入っていけないが、近づく子を拒まない。

Ko は保育士への報告が多いため、うるさがられることが多い。Re は兄がいるためか年長児と遊ぶ姿がみられ、保育士から人気者と呼ばれる通り、いつもそばに誰かがいる。Ke は園庭では三輪車に乗って走り回っていることが多い。Ta は室内でブロック等に集中して立派な作品を作りあげるが、園庭では友だちの中に入っていくことは少ないようである。このように、観察された積極的に話しかけるという行動には、4 名の男児の個人的特徴が表れていると思われる。

集団遊び場面での必要な情報を得るための観察視点をさらに広く検討していきたい。

* 本研究は、科学研究費補助金 (No. 22530719 代表者 相良順子) の助成を受けておこなわれた。